

令和元年 11 月教育委員会定例会 会議録

令和元年（2019）11月26日（火）午後2時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1 会議に出席した委員

教 育 長	榎 野 信 幸
教育委員(教育長職務代理)	小 豆 澤 貴 洋
教 育 委 員	水 陽 子
教 育 委 員	錦 田 剛 志
教 育 委 員	金 築 千 晴

2 説明のため会議に出席した者

教育部次長（教育政策課長）	建 部 敏 紀
学 校 教 育 課 長	金 築 健 志
児 童 生 徒 支 援 課 長	兒 玉 浩 二
教 育 施 設 課 長	園 山 裕 二
学 校 給 食 課 長	金 森 真 治
出 雲 科 学 館 長	矢 田 浩 一
学 校 教 育 課 主 査	山 崎 創
児童生徒支援課課長補佐	渡 部 俊 樹
保育幼稚園課課長補佐	山 崎 久 美 子

3 会議の書記

教 育 政 策 課 課 長 補 佐	常 松 晃 好
-------------------	---------

4 傍聴者

1 人

開会

(榎野教育長) 只今から、令和元年 11 月出雲市教育委員会定例会を開会します。
本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおり行います。

1 教育長行政報告

(榎野教育長) それでは、教育長行政報告を行います。(以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

R1.10.23	教育委員学校訪問 ～10.29、30、11.6
R1.10.24	いじめ問題対策委員会
R1.10.24	医師会学校医部会との懇談会
R1.10.29	校長の会議(予算要望)
R1.10.31	中国地区生活科・総合的な学習の時間教育研究大会
R1.10.31	まちづくり懇談会(日御碕)
R1.11.1	管内教育長会
R1.11.5	市議会全員協議会
R1.11.5	科学館運営理事会
R1.11.6	校長の会議
R1.11.12	中学生議会
R1.11.13	少人数学級編制等緊急要望
R1.11.16	同和教育研究指定事業発表会(灘分地区)
R1.11.16	中部小学校 50 周年記念式典
R1.11.17	第三中学校完工式
R1.11.19	校区検討委員会
R1.11.19	人権作文・ポスターコンクール表彰式
R1.11.21	健康教育研究発表会(湖陵中)
R1.11.24	教育シンポジウム
R1.11.25	出雲市教職員協議会要望
R1.11.26	定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

R1.11.26	まちづくり懇談会(湖陵)
R1.11.27	奨学事業運営委員会
R1.12.2	市議会初日 ～12.19
R1.12.4	市議会一般質問 ～12.9
R1.12.10	県学力調査
R1.12.11	市議会文教厚生常任委員会・予算特別委員会分科会
R1.12.12	いじめ問題対策委員会

R1.12.12	緊急告知ラジオ贈呈式
R1.12.17	校長の会議
R1.12.19	市議会最終日
R1.12.24	定例教育委員の会議

（榎野教育長）只今の報告で、質問等がありますか。

（各教育委員）ありません。

2 会議録の承認

（榎野教育長）次に、会議録の承認に入ります。前回10月定例会の会議録について、何か意見等がありますでしょうか。

（各教育委員）ありません。

（榎野教育長）特に意見等ありませんので、10月定例会の会議録については承認します。

3 議事

（榎野教育長）それでは、議事にはいります。最初に「議第32号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を、教育部 建部次長 に説明をお願いします。

（建部次長）資料に基づき説明

（榎野教育長）只今の、議第32号について、何か質疑等はありませんか。

（各教育委員）ありません。

（榎野教育長）特に質疑等がないようですので、議第32号について、承認してよろしいですか。

（各教育委員）異議なし。

（榎野教育長）ご異議ありませんので、議第32号を承認します。

4 報告

（槇野教育長） 次に、報告事項に入ります。報告（１）「１２月定例市議会への提出案件について」のうち、①「補正予算案件」を、教育施設課 園山課長 に説明願います。

（園山課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（１）の②「条例案件」を、保育幼稚園課 山崎課長補佐 に説明願います。

（山崎課長補佐） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（１）の③「単行議決案件」を、学校給食課 金森課長 に説明願います。

（金森課長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） それでは、只今の報告について、何かご意見ご質問がありましたら、お願いいたします。

（錦田委員） 金属探知機については、既存のものをすべて移設するということでしょうか。

（金森課長） そのとおりです。

（金築委員） 平田など他の給食センターにも金属探知機はありますよね。

（金森課長） 昨年度末にすべてのセンターに配備しています。出雲、平田、斐川各センターに２台ずつと、それから、ハンディ探知機を、市内の６センターに数台ずつ用意して使用しています。

（金築委員） 配備後の効果はいかがですか。

（金森課長） 配備以降において、食材を通すときに金属反応があり、食材への混入を未然に防止したという事例もありましたので、効果はあったと考えております。

（小豆澤委員） 契約の相手方は、全て代理店で、本社を出雲市に置く会社は1社もありませんね。

（金森課長） 主要給食厨房メーカーといいますと、こういったところに絞られてきます。

（小豆澤委員） 皆さん松江市に拠点があるということですね。

（金森課長） そうです。

（槇野教育長） ほかはよろしいでしょうか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（1）の④「専決処分の報告」を、教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

（小豆澤委員） 6月の下旬からのお話で、専決処分書の日付を見ると11月6日とありますが、これほどに時間がかかるものでしょうか。

（建部次長） 損害賠償の割合等の協議がありますので、数か月の時間は、どうしてもかかってまいります。

（小豆澤委員） 「役所」だからということでしょうか。一般的に、自動車の接触事故などは、保険屋さんが動かれてすぐに終わるイメージがあります。

（建部次長） 今回の場合、損害賠償の割合は本市が2、相手方が8となりましたが、そのあたりの協議で若干時間かかったということでございます。

（槇野教育長） ほかはよろしいでしょうか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（１）の⑤「報告書の提出」を、同じく教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、何か質問等はありませんか。よろしいでしょうか。また、お読みいただいて、何かご意見、疑問点ございましたら、お知らせいただきたいと思います。

（槇野教育長） 次に、報告（２）「少人数学級編制及び学校司書等配置に係る子ども読書活動推進事業交付金の継続を求める要望書の提出について」を、同じく 教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告（２）について、何か質問等はありませんか。

（錦田委員） 県から発表があったわけでもない中、新聞記事が出たことに、私は非常に違和感を持ちまして、子どもたちの教育の問題に関して、こういった情報の出方はまずいのではないかという第一印象を持ちました。本来ならば、まず、要望した側に説明があった後にやりとりがあつて発表に至る、ということならわかるんですけども、何か不信感を抱いてしまうというのが率直な感想です。

（金築課長） 学校教育課長の金築です。確かに、「小学校 1 年生は現行の 30 人が 32 人になる」というような情報は、我々も新聞を見て知ったという経緯があります。後追いですけれども、今週の金曜日、29 日に、出雲教育事務所管内の市町村教育委員会に対して県から説明されることになっております。私が出席してまいりますので、意見を述べようと思っております。各管内で日にちを変えて、これから県が説明に歩く、意見交換をするとのことですが、新聞報道が先でしたので、我々も驚きました。

（錦田委員） 推測で発言してはいけませんが、これだけ真摯に要望している事柄について、もしも意図的な動きがあつたのであれば問題ですし、いずれにしても、県当局として真摯に情報管理してもらいたいということぐらいは、市町村から言っても良いような気がします。事実関係を整理していただきたいと思います。新聞報道を見たときに、非常に不可解なものを感じました。

（槇野教育長） そうですね。意図的に出されたものではないかなという印象を強く持っていますね。

（錦田委員） ここまで具体的なものが出るのは不自然です。いずれにしても、当事者た

る市町村教育委員会に対して後から話がある、原案の提示があるというのは、寝耳に水なわけですから、おかしいと思います。紳士的ではないと思います。

（槇野教育長） 市内で支援を要する子どもたちが増えていて、教育補助者を配置していますが、それも結局、今の現場の先生方だけでは対応が難しいからそういう人を配置して補っているところです。通級指導教室においても、市がヘルパーを配置して、やはり足りない部分を補っており、また、不登校も非常に増えている中で、学校の先生だけでは手が回らないからということで、配置しているものもかなりあります。

また、ご承知のように、出雲市では日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒が急激に増加しています。県からの加配教員を増やしていただいているのですが、それでもなお足りないということでして、日本語指導員であったり、日本語指導補助員であったり、通訳・翻訳支援員を任用して補っています。

それから、新しい学習指導要領が、小学校はいよいよ来年度から始まりますが、外国語の教科化や、中学年からの外国語活動の導入によりまして、英語指導助手（AET）を市のほうで配置していますが、これも、人数をほぼ倍増して、学校のサポートに当たっています。

加えて、学校図書館についても、県の制度の利用によって、学校司書の配置を拡充してきておりまして、今年度ようやく17校まで学校司書の配置ができたところです。

それで、要は、今定数で配置されている教職員だけでは余りにもスタッフ不足だからということで、市が任用してその部分を補っている、おそらく補いきれていないと思いますけど、かなりの配置をしています。

先ほど申しあげたような、スタッフの人数を合計すると、300人近い数の教員以外のスタッフを学校へ配置して対応しています。

そして、それらの事業費が2億5000万円ほどであり、国、県からの財源が一部あるものを除いて純粋に市が出している一般財源で2億円余りとなっています。

そうやって、現状でも足りないの、それぞれの市町村もいろいろな工夫をしながら人を配置したりしているという状況の中で、更に加えて言いますと、働き方改革のこの流れの中で、学級編制基準を見直すということで1クラス当たりの人数と基準を大きくする、増やすんだというのは、やはり時代の流れからいってどう考えても逆行していると言えませんが、現在困っている、更にこれからまた新しい困難が予想される中にあって、そういう基準の見直しをされるということに対しては、私たちは容認することができないという立場であります。

ちなみに、今の県の小人数学級編制の制度の場合と国基準で配置した場合との比較をしますと、今の県の制度によって出雲市内に57人、国の基準よりも多くの教員が配置されている、こういう状況にありまして、全く廃止されることはないようですが、かなり影響も出てくるので、現場の教員の皆さんの負担増、それから保護者の皆さんも大丈夫かな、というような不安を抱いていらっしゃると思います。

それで、小学校3年生以上は1学級38人の定員でというたたき台が、今どうも出ていますが、38人で2クラスだと76人ですよね。これからは76人だったら2クラスの学年になるんですけど、76人を今までの35人の基準で編制すると3クラスになり

ますよね。そうすると1クラス当たりの子どもの数が25人になりますので、13人ぐらい違う。1クラスが13人ぐらい違うと、教員の負担はものすごく違いますね。ですので、一見すると35人を3人増やして38人にするだけです、あるいは30人を2人増やして32人にするだけですという説明のような印象を受けますが、クラスの人数が2人とか3人増えるということではなくて、そもそもそのクラスの数が、変わりますので、1クラス当たりの人数でいうとそれぐらい違いが出てくる。そうすると、教員の負担は当然大きく異なりますし、一人ひとりに対してのきめ細やかな対応しようというときにも大きな差が出てくるということがありまして、憤慨しているという状況にあります。

ということで、また機会あるごとにいろいろと言っていこうと思いますし、教育委員の皆様方も、折に触れ、制度を継続すべきだという立場でご支援いただければと思いますので、よろしくお願いします。

（槇野教育長） 次に、報告（3）「教職員の時間外勤務の状況について」を、同じく 教育部 建部次長 に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告（3）について、何か質問等はありませんか。

（小豆澤委員） 30年度以前の状況を示すことができるものがありますか。

（建部次長） 30年度以前については、教職員はタイムカードがなく、勤務時間を把握したデータがありませんでしたので、働き方改革をする中で、先ず、自分がどのくらい働いているか、勤務時間が多いな、など、そういうことをやはり感じていただかないといけないだろうということで、勤務時間を把握するために、IC カード・タイムカードを導入させていただいたという経過がございます。

（槇野教育長） これからデータがだんだんと蓄積されていきますので、変化を見て分析をしていかなければと思っております。

（小豆澤委員） 報告(1)⑤でありました「教育委員会の事務の管理執行状況の点検・評価報告書」7ページの「教育を支える環境の充実」-「教職員等の負担軽減」の中に書いてある評価項目というのは、データの裏付けに基づくものではないということでしょうか。

（建部次長） 教職員の事務負担軽減のためのシステム関係については、かなりの金額もかけながら導入してきており、先生方からもご意見をいただいて、毎年システムの改修もいろいろとやりながら、使いやすいシステムを構築していくといった取組は、これまでしてきているところではあります。

(小豆澤委員) 学校の実務に当たられている先生方の要望を聞いてシステム改善を図ったものに対しては、数値的評価が今後可能であるということによろしいでしょうか。

(建部次長) 当然、勤務時間を減らしていくような方向に行かなければいけないと思いますが、校務支援システムについては、あくまでもかなり補助的な部分ですので、先ほども教員の数等のお話もありましたけど、根本的な労働環境そのものを改善しないとなかなか縮まらないのかなというふうなことも感じております。

(小豆澤委員) この事業評価は、効果の評価がなかなか難しいですね、できれば、数値的に対比ができるようにしていただきたいのと、非常に思うところです。

(建部次長) 今後、このタイムカードのデータもだんだん蓄積していけば、もう少し分析できるかと思います。

(小豆澤委員) 参考までに、学校の先生たちの残業は、誰の指示によって行われているんですか。一般的には、管理職が業務に対して指示をしなければ、本来、労働者の残業は発生しません。

(榎野教育長) 命令で行われているということではなくて、自主的、自発的に職場に残っているというのは圧倒的に多いと思いますね。学校の先生は、時間外として認められる例が4つあるんですけども、そのときは当然命令があって初めて実施されます。しかし、一般的にはそういった「超勤4項目」に該当するようなことはまずないですね。

(小豆澤委員) 世の中ではそれを「ブラック」というので、私も会社を運営していますけども、基本的には、直接私ではないにしても、管理職が必ず指示をして残業してもらってその対価をお支払いする、というのが通常の世の中であり、せっかく拾えるデータが出てきても、今、この報告では何も認められないので、やはりこういった報告を出すのであれば、こういう効果がありましたっていうことを誰が見ても納得できるようなかたちにしていきたいと思います。「今後に向けてデータを集め始めました」というところで確かにそうかなと思うんですけども、今後そうした報告をしていただければ非常に良いのかなと思います。

それと、先ほどの小人数学級編制のお話の方向性次第では、こういった評価もぶれてくるということになりますよね。もし、急激な変化が起きるようであれば、出雲市さんに頑張ってもらっていて、今の体制を維持したうえでこの評価を進めていただけると、このせっかく導入したシステムの評価がもっと誰にでも理解してもらえるし、改良点なども抽出しやすくなっていくかなと思います。

あともう1点が、学校ICT化のために国費10兆円投入というような話が最近出ており、1人に1台タブレットというようなことが今言われていますが、ぜひ電子教科書の導入もあわせて検討いただけると効果があるのではないかと思います。

（槇野教育長） 期待しています。噂だけで終わらないように願っています。

（小豆澤委員） 電子教科書もあわせて、副教材的なものの配信等も駆使できれば、宿題の効率性もあがるでしょうし、明日の準備物とかもあるじゃないですか。小学校のうちは、担任の先生が1人で複数教科を教えていて、1人の先生からの指示で宿題が出ますからまだよいのですが、中学校へ行くと専科に変わりますので、いろいろな人がいろいろなことを、いろいろな記述で出されますので、整理がつかない子どもって意外と多いわけですね。そういったものが、タブレットの中で、「黒板」というものがデジタル化されて常に更新されて配信されれば、親が家庭でチェックするうえでも、非常に効果的なものになるかと思いますので、国費投入を待っています。

（槇野教育長） この「時間外」と言われる時間の変化だけでは、なかなか評価できない部分もあると思いますけども、ただ、この「時間外」の時間が減るということはひとつの成果のあらわれかなと思いますので、そういったことが、お示しできるようにやっていきたいと思いますし、それから、このシートには書いていませんけど、校務支援システムを入れることによって事務時間の短縮につながったというデータがアンケートで出てはいるんですよ。そういった数字も載せておけばよかったかなと思ったところですが、できる限り数値化できるものは数値で示して、評価の際のわかりやすい判断材料ということで、そういう資料の作成をこれから心がけていかなければと思ったところでございます。

（槇野教育長） ほかはよろしいでしょうか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） 次に、報告（4）「学校訪問について」を、同じく 教育部 建部次長に説明願います。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の、報告（4）については、教育委員さん、それぞれに感想やご意見をお願いします。

（小豆澤委員） あくまで私の感想として述べますが、北浜小学校は、大変特色ある学校づくりをされていて、強い魅力のある学校だなということを非常に感じました。ドラマにでも出てきそうな学校が統合でなくなってしまうのかと思うと、非常に残念だというふうに思いました。

あと、ある小学校において、今現在、問題行動なども多い小学校であるけれども、細かなしつけの習慣化を徹底しているといった校長先生のお話を聞いていると、私自身の

子育てに対しても思うところもあったりして、このままやっていけば、今後この小学校が細かなことに気がつく子どもたちが増えて、非常に良い学校になっていくんだろうなという期待を持った学校訪問でした。

(水委員) 私は、今回は、2年前に訪問させていただいて、また2度目に行かせていただいたところがほとんどでした。先生、児童生徒さんそれぞれが一生懸命頑張っている姿を拝見して、施設等いろいろな差はありますけれども、そこで行われている教育というのはやはり変わらないものであるなと思いました。

今回、校舎内の掲示物とか絵画とかそういうものを、すごく興味を持って見させていただいて、飾られている絵画などは、本当にたくさんある学校もあれば、全くないという学校もあったり、そういうところを少し勉強させていただきました。

ある中学校で、1人1台ずつパソコンに向かってディスプレイから流れる配信素材を見る授業があって、映像は、確かにすばらしいものだと思いますけれども、先生は教壇にいらっしやいましたので、せめて先生が生でしゃべっておられたら、と少し残念に思いました。以上です。

(錦田委員) 学校訪問させていただくたびに、小中学校というのは、やはり地域あつての小中学校だなと感じます。地域の文化、歴史、その風土全体、地域の一部なんだなということを、当たり前のことですけれども、改めて強く感じたということでございます。

それと、今年度統合をした小学校の子どもたちの授業も拝見して、いろいろなお話を聞いて、一生懸命、先生方も合併後のさまざまな問題を回避するように努力しておられまして、子どもたちの様子も心配だったんですけれども、非常に落ちついているというのをお聞きし、また、実際、落ちついておりましたので、まずは一安心だったなという率直な感想を持ちました。以上です。

(金築委員) どの学校も、小人数編制で、こじんまりとした学校で、私自身小さい学校だったので、どこか懐かしく見ていました。先ほど錦田さんおっしゃったように、地域があつて、子どもたちが守られている感じで、自分の母校はなくなってしまったので、子どもたちが歩かない静かな道路が寂しくて、この子たちは見守られて幸せだなという、ずっとあつて欲しいという気持ち、統廃合もありますけれども、やはりその地域で子どもたちの元気な声を聞いて、お年寄りの方も活性化して、学校のことを手伝ったりとか、野菜とか作っておられて、いいなと思って見ていました。子どもたちも素直で、かわいくてよかったんですけど、ある小学校の図書室につながる廊下、階段が意外と暗くて、節電なのかわかりませんが、図書室に行くまでに真っ暗なところを通っていかなければいけなくて、怖くて図書室に行けない、本を読みたくてもあそこに行くまでにきつとすごい葛藤があるのではないかと思います。あの日たまたまだったかもしれませんが、非常に素敵な学校なのに、ちょっと薄暗くて本を借りに行くのは難しいかなという感想がありました。

(槇野教育長) いろいろと感想、ご意見聞かせていただきましてありがとうございます

た。

5 その他

（槇野教育長） それでは、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育部 建部次長 に説明をお願いします。

（建部次長） 資料に基づき説明

（槇野教育長） 只今の報告について、質問等はありませんか。

（各教育委員） ありません。

（槇野教育長） その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

（各教育委員） ありません。

6 次期教育委員会の開催時期

（槇野教育長） 次期教育委員会の日程ですが、12月24日（火）の、午後2時から、市民応接室で開催いたします。

閉会

（槇野教育長） 以上をもちまして、令和元年11月出雲市教育委員会定例会を閉会します。

(15:10) 定例教育委員会閉会